

VR

②

VRを用いた市民参加型 遺跡のデータドネーションアプリ開発のためのトライアル

筑波大学

提案の背景

- 遺跡整備へのBIMの利用
- 文化財で用いられているVR、ARは観光用だけ



遺跡の保存と活用にBIMのデータを活用し
気軽に参加し整備にも使える
遺跡のデータドネーションアプリを開発

トライアル概要

検討したいこと

- BIMをベースにしたクラウドと3Dスキャンデータの連携手法の構築
- 既存の3Dスキャンアプリの比較検討

概要

1. 遺跡に関するデータの整理(発掘図面、遺物、整備図面、周辺環境)
2. 遺跡の3Dデータ取得手法の比較検討(ライカの空間情報システム、ドローン、スマホアプリ数種類)
3. 1、2を用いたBIMモデルの構築
4. ワークショップ(3Dスキャンとデータ共有のトライアル)



実施場所: 平沢官衙遺跡

期待される効果・実現する未来社会

期待される効果

BIMと3Dスキャンを連携する遺跡保護アプリを開発
遺跡の整備、観光、教育で得たデータを未来に活かす

実現する未来社会

アプリを使って文化財をより多くの人々が身近に感じることができるようになり、
「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する(SDGs11.4)」ことができる